西宮市政報告
かんの新聞
第27号
年4回発行

入院待ちを減らすシステムの構築を

新型コロナウイルス感染症の対策

■かんの雅一＝染殿町

私は令和3年11月、西宮市医師会の伊賀俊行会長に新型コロナウイルス感染症の対策についてインタビューをしました。伊賀会長は感染拡大期において入院待ちの自宅療養者数を減らすため、コロナ病床の空床情報などについてリアルタイムで確認できるシステムを構築するとともに、市独自の宿泊療養施設を設置することを求めました。**＝2面に関連記事**

インタビューの中で、伊賀会長は令和3年で医療体制が最も逼迫した4月下旬から5月中旬にかけての第4波のピーク時について「本来なら入院が必要な中等症から重症の患者も自宅療養を余儀なくされた」と述べ、深刻だった状況を指摘しました。

西宮市議会議員
かんの雅一 まさかず

市独自の宿泊療養施設の設置を　西宮市医師会の伊賀俊行会長が要望

■かんののインタビューに答える伊賀俊行会長＝染殿町

市によりますと、市がコロナ患者の入院について市内の医療機関と調整する一方、コロナ病床が満床になるなどで市内の医療機関の受け入れが難しくなった場合、兵庫県に市外の医療機関との調整を依頼しています。しかし、第4波のピーク時には市内の医療機関のコロナ病床が満床になり、県に依頼したものの、自宅療養のまま待たされる患者が続出したとしています。

伊賀会長は「現場の医師には市の保健所を通じて県の情報が入ってくることになっているものの、県と市の連携が不十分なため、医師が自宅療養中の患者に『いつ入院できるのか』などについて十分に説明できなかった」と指摘しました。

伊賀会長は「『1泊で翌日は必ず他の病院に移送してくれるのなら、1泊だけコロナ患者を受け入れてもいい』などと協力を申し出てくれる病院は多かった。しかし、入院調整は行政が担当しているため、せっかくの申し出を生かせなかった」と語りました。

そのうえで、「入院調整や患者の移送を柔軟に行うためには、コロナ患者対応病院の空床情報などをリアルタイムで確認できるシステムを構築して、行政を介さずに病院や診療所の間で調整する体制を整える必要がある。県と市が連携して、このシステムを構築してほしい」と要望しました。

第4波のピーク時には、医療スタッフが常時、監視できる宿泊療養施設よりも、病状確認の機会が少ない自宅療養に重症者が多いという逆転した状況も生じました。

伊賀会長はこの再発防止策として「宿泊療養施設については県ばかりでなく、市も独自で設置して西宮の患者を受け入れる体制をつくってほしい」と要望。市独自で宿泊療養施設の入所と在宅往診対応を調整するシステムの構築も求めました。

ジャーナリストの視点で調べる・伝える

元産経新聞記者
保守系無所属

基本設計の概要を発表　統合再編の新病院
仮称は「県立西宮総合医療センター」

病院棟などを建設／感染症対応機能を充実・強化

■新病院の完成予想図（市提供）

兵庫県と西宮市は令和3年11月、県立西宮病院と市立中央病院を統合再編して整備する県立県営の新病院の基本設計の概要を発表しました。仮称は「県立西宮総合医療センター」とし、病院棟など3棟を建設。総事業費は386億円。4年12月ごろに着工し、7年度下期に開院する予定。

概要では、新病院の基本方針として❶高度急性期・急性期医療の提供❷救命救急センターとしての役割❸先進医療への対応❹感染症対応機能の充実・強化―などを掲げました。

津門大塚町のアサヒビール西宮工場跡地2万6千平方メートルに、病院棟（11階建て、延べ5万4555平方メートル）と放射線治療棟（3階建て、延べ1228平方メートル）、救急ワークステーション棟（2階建て、延べ382平方メートル）を建設します。これ以外に立体駐車場棟について民間事業者を公募によって選定し、事業者の資金で整備・運営してもらうことにしています。

病院棟は1～4階に救急や外来、医局、手術室などを配置するのをはじめ、5～10階を病棟とし、屋上にヘリポートを設けます。

新型コロナウイルス感染症の拡大を踏まえ、感染症患者専用の入り口や診察室を整備。6階病棟では、通常の診療を行いながら感染の拡大に応じて受け入れる感染症患者数を増やせるように、陰圧化するゾーンを4段階で広げることができます。感染症患者向けに最大で50床を提供します。

診療科は現在の両病院の診療科に加え、脳神経内科や心臓血管外科、精神科を新設し、計35科とします。病床数は552床。

新病院の開院後、県は六湛寺町の県立西宮病院の用地と建物について国道2号に面する本館と2号棟を民間に売却し、南側の3号棟を市に売却する方針。市は林田町の市立中央病院の跡地活用策として民間医療機関を誘致したいとしています。

いつでも電話を！

新型コロナウイルスの感染拡大が私たちの暮らしを直撃しています。感染への不安や体調、仕事、経済的な問題、家庭の問題をはじめ、色々な事情でつらい思いをされている方が多いと思います。
悩みを抱え込まないでください。いつでもいいので私に電話してください。一緒に考えましょう。
私の連絡先はこのページの下に記載しています。
メールやFAXでも結構です。

定期送付のご案内

西宮市政報告「かんの新聞」は年間4回、発行し、南甲子園地区（市立南甲子園小学校の校区など）と周辺地域を中心に各戸配布し、西宮市内に配達する産経新聞朝刊に折り込みとして入れます。それ以外の方、ビラ配布禁止の集合住宅にお住まいの方、確実に入手したい方には定期的に送付します。下記●印の必要事項を記載いただき、お申し込みください。市政へのご意見、ご要望や「かんの新聞」のご感想もお書きいただければ、うれしいです。「かんの新聞」のバックナンバーをご希望の方もご連絡ください。

●「定期送付希望」●郵便番号●ご住所●お名前●ご連絡先電話番号●メールアドレス

はがき宛先　〒663-8153西宮市南甲子園3丁目4-51-101 かんの雅一宛

メール・FAXでのお申し込みは本紙最下段に記載の宛先まで

言葉の解説　子ども家庭総合支援拠点とは何？

平成28年の児童福祉法改正で市区町村が設置するように努めることを義務づけられた拠点で、全ての子供とその家庭、妊産婦の福祉について支援します。本市は1月に本庁舎内に設置しました。専門知識を有する子ども家庭支援員や心理担当支援員、虐待対応専門員で構成し、兵庫県の西宮こども家庭センター（児童相談所）などの関係機関と連携して児童虐待の防止に努めるとともに、子供の継続面接やペアレント・トレーニングなどの事業も実施します。

本名：**菅野 雅一**（かんの・まさかず）

昭和33年（1958年）、神戸市生まれ。上智大学文学部新聞学科卒業。昭和60年に産経新聞社に入社。平成27年1月に退社し、同年4月の市議選に初当選。31年4月の市議選で再選。保守系で政党無所属。「会派・ぜんしん」メンバー。南甲子園自治会副会長。NPO法人海浜の自然環境を守る会副理事長。社会福祉法人真砂ちどり保育園理事長。防災士。

次号は令和4年5月の発行予定です

かんの雅一事務所
〒663-8153 西宮市南甲子園3丁目4-51-101
TEL：090-1895-1488　FAX：0798-40-9530
《MAIL》info@kannomasakazu.com

●詳しい政策はホームページへ www.kannomasakazu.com
かんの雅一　検索

伊賀俊行会長インタビュー　主な一問一答

第4波で医療体制が逼迫 情報不足で患者の不安を解消できず

―新型コロナウイルス感染症への市や医師会のこれまでの取り組みについてどのように評価しますか。

「西宮市医師会は自宅療養患者に対する往診チームを結成し、会員の医師が市保健所の要請に応じて患者の自宅を訪問した。医療体制は令和3年4月下旬から5月中旬にかけての第4波のピーク時の方が7月から9月にかけての第5波の時よりも重症者が多く、逼迫した。私たちが一番、困ったのは第4波のピーク時、現場の医師たちが入院待ちで自宅療養中の患者や家族から『いつ入院できるのか』などと聞かれても、情報がないため答えられなかったことだ。このため、患者や家族の不安を解消することができなかった」

県と市の連携が不十分

―市は第4波のピーク時、市内の医療機関の受け入れが難しくなったため、兵庫県に市外の医療機関との調整を依頼しましたが、自宅療養のまま待たされる患者が続出したと聞いています。なぜ情報が届かなかったのですか。

「現場の医師には市の保健所を通じて県の情報が入ってくることになっているものの、県と市の連携が不十分なため、コロナ病床の空床情報などが十分に提供されない状況が続いた」

―それは深刻な問題ですね。

「市の保健所が自分たちで入院調整をすれば、『あと何人待ちです』と現場の医師に連絡できる。県に入院調整を依頼している場合、保健所は『この患者は重症化しそうだから、優先して入院させてほしい』などと県に要望することしかできない。保健所は感染拡大期において業務に忙殺され、現場の医師への連絡回数が減った。県も同様の状況だったのだろう。しかし、どんなに忙しくても必要な情報を関係者の間で共有できるシステムを構築する必要がある」

■伊賀俊行会長（左）とかんの＝西宮市医師会

伊賀俊行（いが・としゆき）氏の略歴
昭和33年3月、兵庫県生まれ。神戸大学医学部卒業。神戸大学医学部助手、赤穂市民病院眼科部長などを経て平成9年から伊賀眼科クリニック院長。西宮市医師会では副会長などを経て令和2年から会長。西宮市学校保健会会長。西宮市社会福祉協議会理事。

自宅療養者数
西宮市保健所によりますと、令和3年の市内の自宅療養者数が最も多かったのは第5波の8月27日の793人。第4波のピーク時の5月3日は227人でした。

県にもっと現場の医師の声を

―これは構造的な問題ですか。

「西宮市はもともと、県と情報交換をしにくい環境にある。例えば、県の知事・副知事や各部長らで構成する新型コロナウイルス感染症対策本部会議に政令市である神戸市は参与として出席しているが、それ以外の市町は呼ばれていない」

―県は本部会議終了後に記者発表資料を各市町にメールで送信していますが、会議録までは送っていません。

「医師会についても県の医師会が参与として出席しているだけだ。現場の医師の声をもっと県に伝える仕組みをつくってほしい」

他の患者の受診抑制が心配

―長引くコロナ禍で心配していることは。

「私たちが懸念しているのは感染を恐れた他の患者の受診抑制が続いていることだ。どこの病院や診療所も患者が大幅に減っている。多くの高齢者は外出せず、自宅にこもっている。このままでは認知症患者が増えそうだ。糖尿病患者は血糖値が高いままでも自覚症状が少ないから、放置するケースが多い。私は眼科だが、緑内障患者の中には1年以上、診察を受けに来ない人もいる。そんな人たちの5年先や10年先が心配だ。感染状況がある程度、落ち着けば、積極的に受診してほしい」

西宮市医師会

医師会は日本医師会と都道府県医師会、郡市（区）医師会の3種類があり、それぞれ法人格をもって独立し、互いに連携しています。西宮市医師会は郡市（区）医師会の1つで、大正14年に設立。病院や診療所など468機関と、開業医や勤務医ら855人の会員で構成しています。

新型コロナウイルス感染症の対策事業としては西宮市PCR検査センターを運営し、発熱等診察・検査医療機関を指定しています。ワクチン接種事業については医療従事者の優先接種事業や高齢者等の集団接種事業を運営。市との協議により個別接種に係る円滑化を図り、病院や診療所での個別接種を進めています。

かんのコラム 27

令和4年度から4年間で

全小学校の体育館などに空調設備を整備

児童の熱中症対策や避難所機能の強化が狙い

今津小は4年度に整備　南甲子園小、甲子園浜小は7年度までに

市は令和4年度から4年間で市立小学校全校の体育館などに空調設備を整備する方針を決めました。2年度に市立中学校全校の体育館に空調設備を整備して計画通りの効果を概ね得られたことから、熱中症対策や避難所機能の強化などのため、小学校体育館などでも整備することにしました。

新たに体育館に空調設備を整備するのは市立小学校40校のうち環境対策として整備済みの上甲子園小学校を除く39校と義務教育学校（前期課程）1校、高等学校2校の計42校。

■市立真砂中学校の体育館に設置された空調設備＝今津真砂町

空調の方式は中学校体育館と同様に都市ガスを利用するガス式を採用します。災害などによる都市ガスの供給停止に備え、可搬式の外部電源やLPガスによる運転を可能とする仕様にします。

市は体育館の空調設備の整備によって教育環境の改善や避難所としての防災機能の強化、地域スポーツの振興などを期待できるとしています。

整備の順番としては自主避難所に指定されている体育館を優先します。そのうえで、土砂災害避難所、武庫川洪水避難所に指定されている体育館、その他の体育館の順で年10校のペースで整備する計画。自主避難所の今津小体育館は令和4年度に整備します。武庫川洪水避難所である南甲子園小と甲子園浜小の両体育館は7年度までに整備する見通し。

41校分の総事業費は約19億1800万円。避難所機能の強化が整備の趣旨でもあるため、国の緊急防災・減災事業債（緊防債）を活用でき、このうち7割が地方交付税で措置されるため、市の負担は3割ですむ見通し。

市は整備した中学校のうち4校の体育館で室温やWBGT（暑さ指数）を測定しました。室温は平均で2度から2.5度低下し、窓を閉め切った条件では約5度低下。WBGTは「警戒」レベルから「注意」レベルに1ランク改善したことから、計画通りの効果を概ね得られたとしています。

市議会が平成30年12月定例会で市立小・中・高等学校の体育館へのエアコン設置を求める請願に対する決議を全会一致で可決しました。

私は令和3年3月定例会の代表質問で「小学校体育館の空調設備の整備については多くの市民が要望しており、緊防債の事業期間の延長で財源を確保できるめどが立ったわけだから、検討すべきだ」と訴えました。

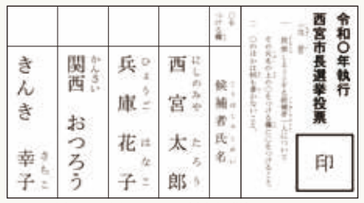
記号式投票を導入

3月の市長選と市議補選で実施

市議会は令和3年12月16日、市長選挙に加え、市長選と同時に執行される市議会議員補欠選挙の2つの選挙について候補者名が印刷された投票用紙に「○」を書く記号式投票を導入する条例案を賛成多数で可決しました。4年3月の市長選と市議補選から実施します。

兵庫県内の自治体の選挙で記号式投票を導入するのは令和3年10月の神戸市長選挙に次いで2番目。西宮市長選と市議補選の期日前投票や不在者投票は従来通り自書式で行います。5年の市議会議員選挙は候補者が多いことから、従来通り自書式で行うとしています。

市選挙管理委員会は記号式投票の導入の狙いについて「投票用紙に『○』を書くだけだから、投票者の負担が減るとともに、記載ミスの減少によって投票者の意思が明確に伝わる。疑問票や無効票の判定にかかる時間と手間が減り、開票業務が軽減される」としています。



■記号式投票用紙のイメージ（市提供）